

文部科学省研究開発指定 平成29～令和3年度

新領域「いのち」を中心とした各教科・領域横断型の 幼小中一貫カリキュラムの研究開発



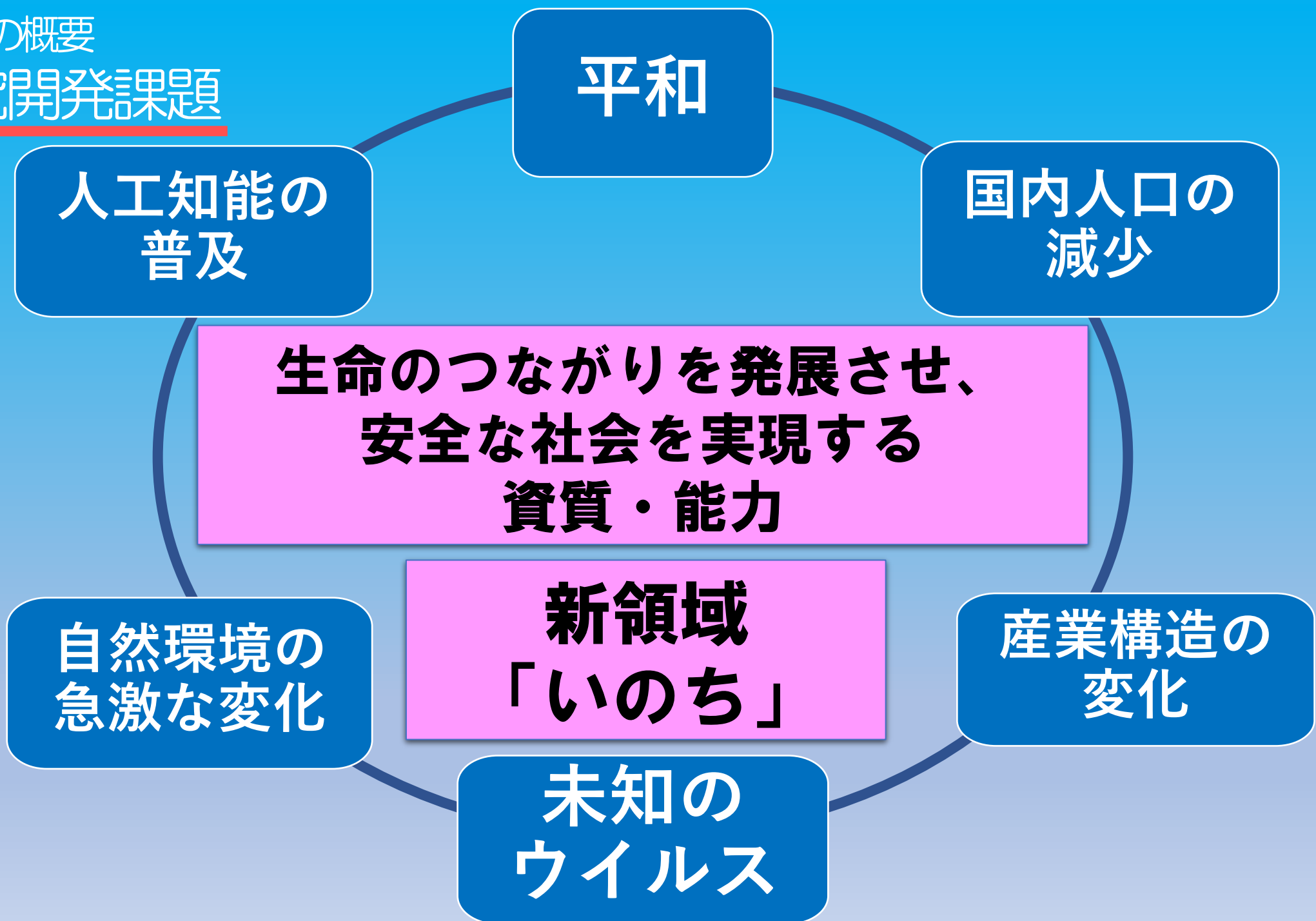
新潟大学附属長岡校園（幼稚園・小学校・中学校）

発表内容

- 1 研究開発の概要
 - ①研究開発課題 ②研究の概要図 ③学習内容
 - ④教科等横断テーマ ⑤学習対象の設定
 - ⑥資質・能力の設定
- 2 コロナ禍における「いのち」の実践と効果
 - ①コロナウイルスに対応した学習
 - ②小学校実践 ③中学校実践
- 3 新領域「いのち」につながる幼児教育
- 4 新領域「いのち」の実践（コロナ前）とその後の子供の育ち
- 5 資質・能力でつなぐ幼小中一貫カリキュラム
- 6 研究開発実施上の今後の課題

1 研究の概要

① 研究開発課題



1 研究の概要

②研究の概要図

12年間を通じた資質・能力の発展的なはぐくみ

意味や本質を問い、納得解や最適解を求め続ける子供

中学校

3つの資質・能力を
一体的に働かせる学び

各教科の本質的な
学習内容

生命・安全

小学校

各教科等

「いのち」

幼稚園

心を動かしながら、
主体的に環境に
働きかけて
楽しむ遊び

願い

思考

「感情」

繰り返し

遊び込みの様相と
密接に関わる心の動き

対話

没頭

認知的資質・能力

社会的資質・能力

実践的資質・能力

1 研究の概要

③学習内容の設定

	1年次研究	2年次研究	3年次研究	4年次研究
生命	有限性、相互性、固有性、連続性といった要素をもつ生物の命や生き方、文化		有限性、相互性、固有性、連続性といった要素をもつ生物の在り様・生き方	
安全	自然環境の保全、他との信頼関係の構築、日常にある様々な危険の理解や危機への対応、安全意識の向上などによって実現されるもの	有限性、相互性、固有性、連続性という生命の4要素が保障されること	生命を脅かす、許容できないリスクがないこと	生命を脅かす、大きなリスクがないこと

1 研究の概要

④テーマの設定

< 1・2年次 >

自然

くらし

平和



< 3・4年次 >

テーマ

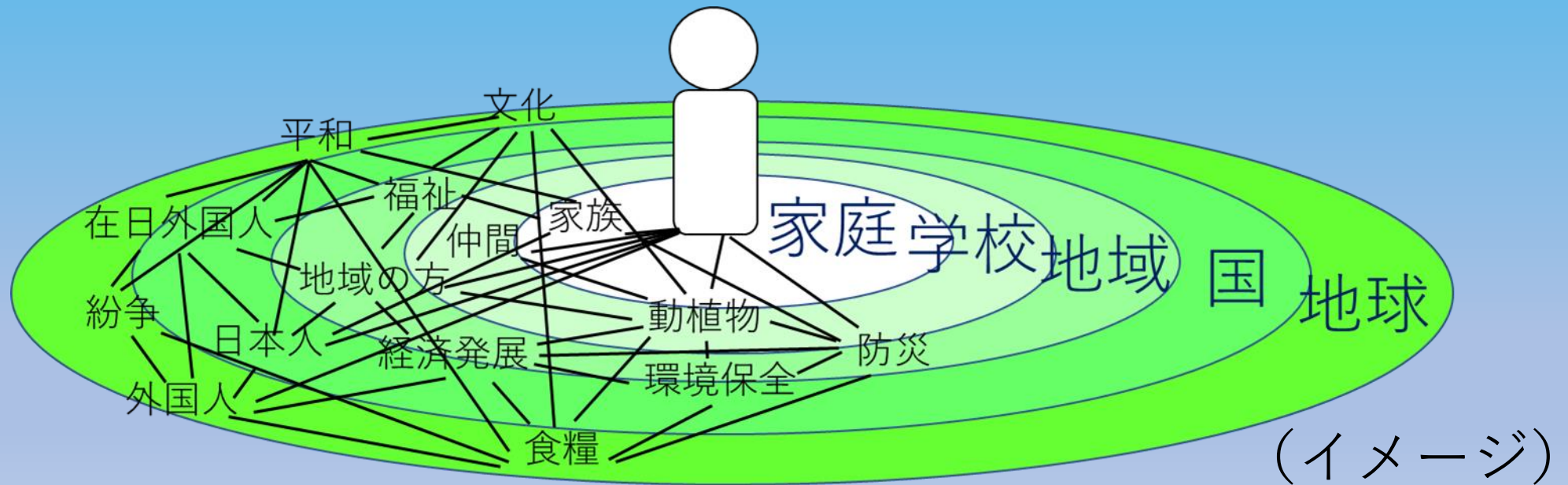
削除

- ・ どのテーマでも「くらし（生活）」につながる
- ・ すでに生命と安全が学習内容であり、テーマでもある。

⑤学習対象の設定

学習対象の空間的広がり

対象同士のつながりの複雑化



1 研究の概要

⑥資質・能力の設定

【認知的資質・能力】	【社会的資質・能力】	【実践的資質・能力】
「論理的思考力」 情報の正しさを、根拠に基づいて客観的・論理的に評価したり、多様な視点から考えたりする力	「敬意」 周囲の人・もの・ことの価値を認め、大切にしようとする態度	「粘り強さ」 困難なことにも立ち向かい、最後までやり遂げようとする態度
「先を見通す力」 ある行動や出来事、働きかけの結果を予測したことに基づき、適切な判断をする力	「共感的態度」 人それぞれが多様な考え、価値観をもつことを踏まえ、他者の心情に共感する態度	「探究心」 より詳しく知りたいと思う気持ち、知りたいことや解決したいことを見付けようとする態度
「伝える力」 言葉や記号などを用いて表現方法を工夫し、自らの思いや願い、考えを表し伝える力	「協働する力」 学びを深めたり、目標を達成したりするために、他者と協力する力	「省察的態度」 自分が考えていることや理解の程度、感じていることなどを把握し、それに応じて思考や行動などをよりよい方向に進めようとする態度

「自己の資質・能力への自覚」

学習対象・内容や場面に応じて、どのような資質・能力が必要かをとらえること
自分の現状から、どのような資質・能力をはぐくむべきか考えること

2 コロナ禍における「いのち」の実践と効果

① コロナウイルスに対応した学習

新型コロナウイルスにかかったらどうしよう

まわりでコロナウイルスにかかった人がいたらどうしたらいいかな

子どもたちが安心して生活できるようにしたい

こんな時だからこそ、自分で考えられる子どもに育てたい



自分たちが置かれている状況に合わせて、豊かな生き方を選択できる資質・能力をはぐくみたい

2 コロナ禍における「いのち」の実践と効果

① コロナウイルスに対応した学習

発達段階に応じた指導計画

大学と連携

指導資料の作成

コロナウイルスに関する「いのち」の指導計画 ※4月時点での指導計画です。使用の際は、最新の情報から教材を作成してください。

		幼稚園	小1(3時間)	小2(3時間)	小3(3時間)	小4(5時間)	小5(3時間)	小6(3時間)	中1	中2	中3	
学習内容	自分のこと	①自分の健康に関心を持ち、病気の予防のために、手洗いの必要性に気づき、自分から進んでしようとする意欲をもつ。 「ピカピカの手って気持ちいいね」 気持ちよさや心地よさ、うれしさなど、子供の感情に働きかける手洗い教育	①どうして手を洗うことが大切なのだろうか。 ②どうしてマスクをつけるのだろうか。 ③給食を食べる時に気を付けるのはなぜだろうか。	①「コロナウイルスやっつけるぞ作戦」を忘れずに行う方法を考えよう。 ②「コロナウイルスをやっつけるぞ作戦」以外で防ぐ方法を考えよう。 ③自分が友達に感染したらどのように行動すればよいだろうか。	①もしも、間違った情報を信じてどうなるだろうか。 ②めんどろに感じる予防を毎日行うことがなぜ必要なのだろうか。	①コロナウイルスとはどんなものか。 ②マスクのつけ方、手洗いをレベルアップしよう。	②コロナウイルスの危険を避けるために自分ができることを考えよう。	②「6年〇組のコロナ予防アクションプラン」を考えよう。 ③6年生としての夢とアクションプランのどちらも実現するためにはどうしたらよいだろうか。	①新型コロナウイルスについて、医療の面から知ろう。 〇感染症予防に関すること(マスク、うがい、手洗い、免疫力向上、消毒、自宅待機)			
	周りの人を含めたこと	②友達と一緒に活動する楽しさを味わい、愛情や信頼感をもつ。 「みんなが楽しく過ごせるために」 相手の気持ち・心という心理的・内的側面への気づきを促す人権教育			③感染した人がいたとき自分ができることはどんなことだろうか。 ④差別につながる行動にはどのようなものがあるだろうか。	④相手を傷つけないで自分を守るためには、どうすればよいか。 ⑤「うわさ」が広がったとき、どうすることが自分と相手のためになるのだろうか。	③学校生体的な場分ができて考えよう。	【新潟大学 牛木学長先生からみなさんへ】				
	社会とのこと					③不要不急の外出を避けることは、誰のためなのだろうか。	②コロナによってとが危険だろうか。	<h2>コロナウイルスを 広げないために できること</h2>				

本教材は、「新型コロナウイルス感染症とその感染予防対策の基礎知識」(新潟大学)を基に作成しました。



2 コロナ禍における「いのち」の実践と効果

① コロナウイルスに対応した学習

自然に起る命にかかわることも、**経路**を絶つこと、**抵抗力**を高めることなど
4. 感染を防ぐには、感染源を絶つこと、感染**経路**を絶つこと、感染**抵抗力**を高めることなど
5. 感染源を絶つ、発熱などの場合は家で休む、**人混み**に行かない。
6. 感染**経路**を絶つ 正しい**手**洗い、**咳**エチケット、きれいな環境
7. 感染**抵抗力**を高める 十分な**睡眠**、適度な**運動**、**バランス**の良い食事
8. 集団発生を防ぐための3つの「密」
①換気の悪い**空間**、②多数が集まる**密集**場所、③間近で会話する**密接**場面
9. あなたは、新型コロナウイルスの流行に関して、生活(学校でも家庭でも)の中でどのようなことが不安ですか?
学校に通う時に**電車**を利用し
てはまっていると思うので、**少**



校園全体で実践
公立校に提案



指導計画の提案に対する公立校の評価
「非常に参考になった」 **44.4%**
「参考になった」 **55.6%**

2 コロナ禍における「いのち」の実践と効果

② 小学校実践

小学校3年生

「わたしたちをつなぐマスクプロジェクト」



「生命」

コロナ禍でも他者と
つながりながら生活を
すること



「安全」

他者と協力することで、
自分たちの生活が
守られること

《単元のねらい》

コロナ禍であっても、自分たちができる協力をするのが、自分や他者の安全な生活につながることに気付く

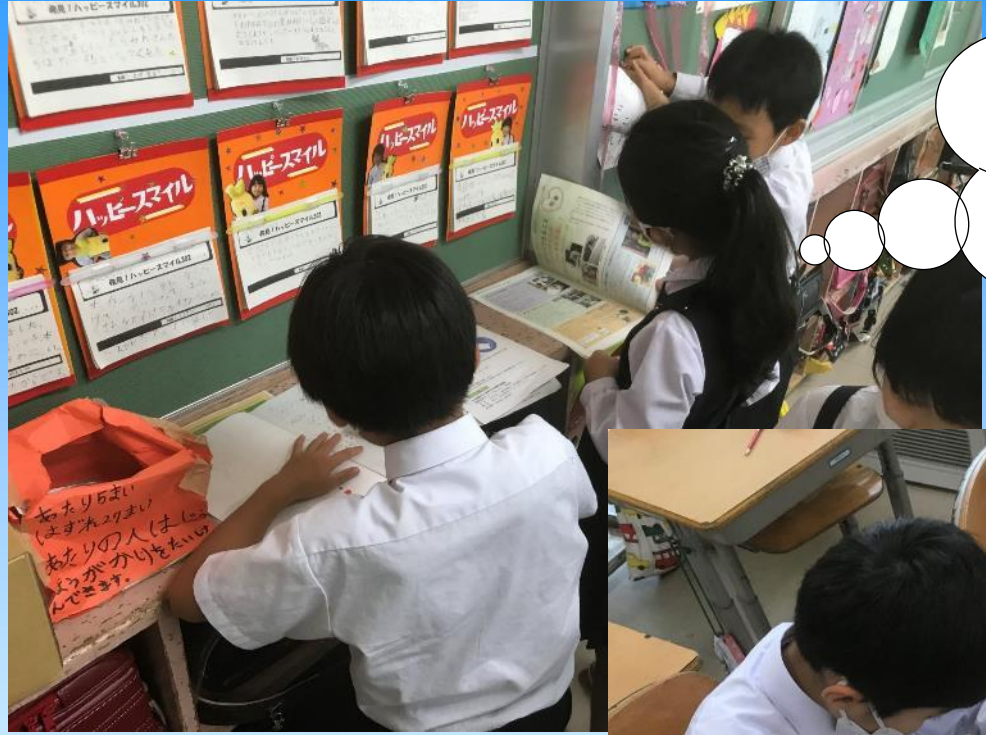
2 コロナ禍における「いのち」の実践と効果

② 小学校実践

手作りマスクをおくって協力することも大切だと思う。



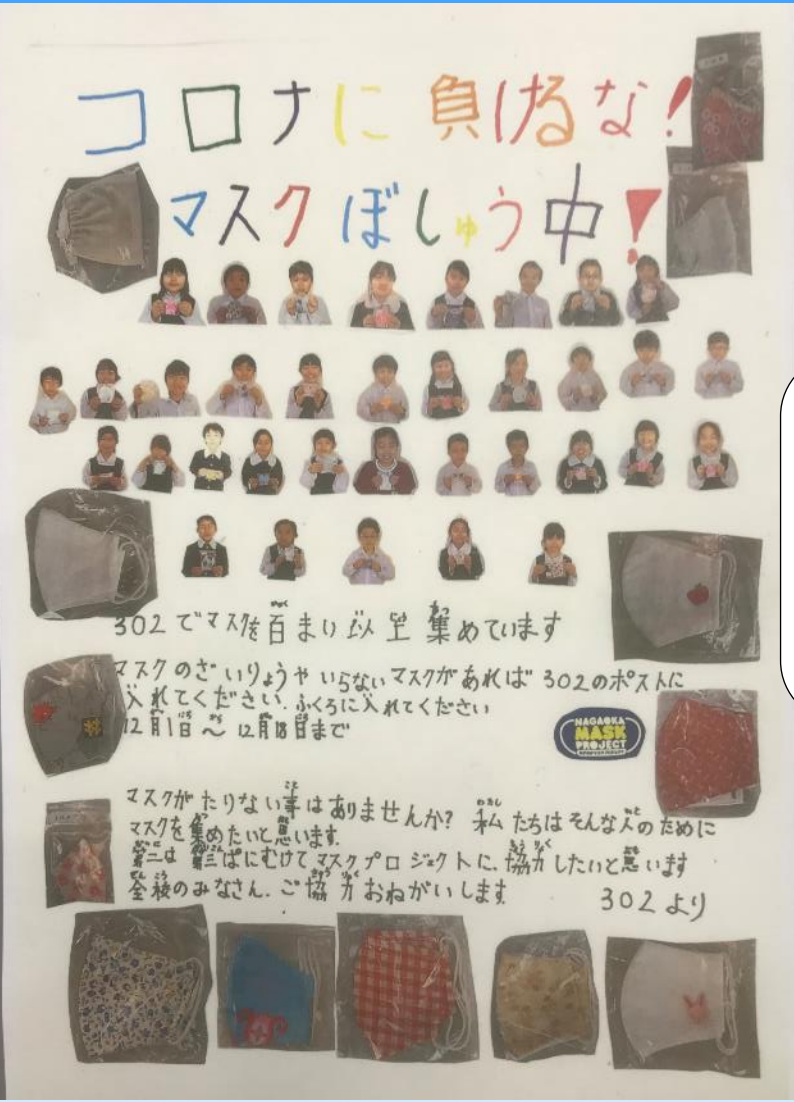
コロナウイルスの流行で困っていることはどんなことかな。



自分たちがマスク集めをすることでどのような協力につながるのかな。

2 コロナ禍における「いのち」の実践と効果

② 小学校実践



マスクの材料や
使用しないマスク
を集めています。

みんなの安心を
守るために協力を
お願いします。



2 コロナ禍における「いのち」の実践と効果

② 小学校実践

実践のまとめ

①子供たちは、自分たちがマスクプロジェクトに協力することの意味を、考えることを通して、他者だけでなく自分自身の安全を守ることへのつながりに気付いていった。

②自分たちの力で協力する場を創り出そうとしたり、意欲を高めたりした。



2 コロナ禍における「いのち」の実践と効果

③ 中学校実践

中学校3年生
「コロナ時代を主体的に生きるために」

禁止される
ことばかり

これまで普通に
できたことが
できない

終わりが
見えない

新たな価値を見出す

多角的・複眼的な
視点から思考する

2 コロナ禍における「いのち」の実践と効果

③ 中学校実践

COVID-19の影響についてインタビュー

企業A（製造）
マスク・空気清浄機
などの関連商品の
売り上げ変化

教員
コロナ禍で増えた仕事、
今までのやり方と変わったこと
プラスに感じる

医師
医療の面でコロナによって
プラスに感じること

県庁
コロナによって進んだ政策、
遅れた政策

企業B（アパレル）
外出する機会が減ったにもか
かわらず売り上げが上がって
いるが、どのよ系統の商品の
売り上げが伸びているのか。

多角的・複眼的視点

2 コロナ禍における「いのち」の実践と効果

③ 中学校実践

取材結果の交流

業種が違くとコロナへの考え方や影響が全然違う。教育現場では感染対策で仕事が大幅に増えている。しかし、業績が伸びたという企業があり、意外だった。

人間は「なんでもやりたいことをやれると考えているがそれは人間の驕り、傲慢である。」という医師のお話から、そういうことも改めて考えさせられた。

どの人もマイナスだけでなくプラスの影響もたくさんあったと回答していた。プラスの影響があまり思い付かなかったので驚いた。

新たな価値



2 コロナ禍における「いのち」の実践と効果

③ 中学校実践

これからの自分ができること

体の健康だけでなく、心と社会の健康も意識することが大切。

より便利により楽にという考えから、全体の調和や共存共栄の考えにシフトする必要があると思う。

できることが少ないけど、目の前のことを一つ一つこなしていくことで、積土成山のようになると思うよ。でも、自分ができることは小さいから、地域や自治体に協力することも必要だと思う。



2 コロナ禍における「いのち」の実践と効果

③ 中学校実践 実践から見えてきたこと

本単元に対する生徒の評価

「有意義、充実、興味深い」等の肯定的評価 全体の約80%

否定的な記述 なし

現代的な課題を踏まえた
生命、安全に直結する単元の価値

生徒が当事者意識をもって主体的に学ぶことができる。

葛藤場面が生まれやすく、自分の価値観を問い直すようになる。

生徒自身が単元の価値を理解し、学ぶことの意味を実感できる。



2 コロナ禍における「いのち」の実践と効果

対応のある t 検定による分析(小中学生対象)から有意傾向にはたらいたものをカウント

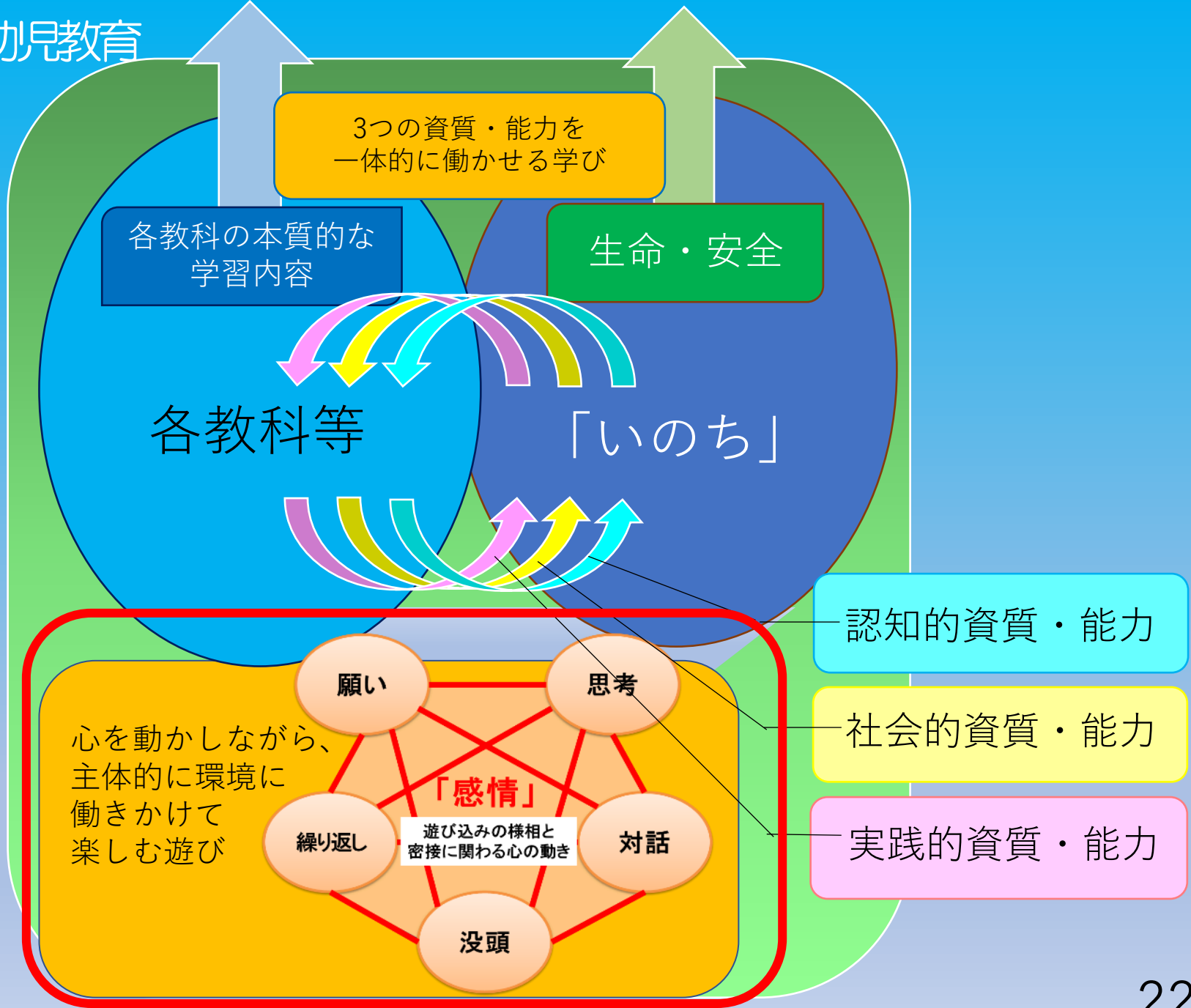
		H30.11→R1.4	R1.4→R1.11	R1.11→R2.4	R2.4→R2.11	R 2.11→R3.4
論理的思考力	上昇	1	2	1		2
	下降				1	1
先を見通す力	上昇	2	2	1		2
	下降	1		1	2	
伝える力	上昇	1	1	1		1
	下降	1			1	
共感的態度	上昇	2	2	1		
	下降	1	1			1
敬意	上昇	1	4			1
	下降	1			1	1
協働する力	上昇	2	2	1		
	下降	1				1
探究心	上昇		1		1	
	下降	1				1
粘り強さ	上昇	1	1			
	下降	2			1	1
省察的態度	上昇		1	1		
	下降	2			1	1
有意差(上昇)合計		10	16	6	1	6
有意差(下降)合計		10	1	1	7	7

< 資質・能力に関して >

- ・新型コロナウイルスの影響を受ける前、資質・能力は順調にはぐくまれていた（R1年度）。コロナ禍では数値は下降した。
- ・R3年度の調査では、回復傾向が見られた。有意傾向を示さなかったものもあるが、現中2では6項目、現中3では8項目において前年度の数値を上回った。中1、小6では2項目が回復した。

上の学年に資質・能力の回復傾向が見られることから「いのち」は上学年で取り組むほど、レジリエンスが鍛えられ、高まっていくものであると考えられる。

3 新領域「いのち」につながる幼児教育



3 新領域「いのち」につながる幼児教育

心を動かしながら，主体的に環境に働きかけて楽しむ遊び



自分の思いをもち，身近な自然のもので色水を作って遊ぶ。
～生命の不思議さ、尊さを感じたり、工夫してやり遂げる達成感を味わったりする～ 23



「葉っぱがないな。葉っぱが。」



**友達と場や道具を共有し、花や葉をすったり
混ぜたりして試しながら遊び込むAさん**

～共通の目的の実現に向けて考え、工夫し、協力する～

作ったジュースを お寿司屋さんでふるまう



お気に入りのジュースができた喜びや満足感から、
作ったジュースを生かして遊びを広げるAさん

4 新領域「いのち」の実践（コロナ前）とその後の子供の育ち

< 「生命」「安全」に関して >

- ・ 質問紙調査の結果から、コロナ禍における影響を受けて、「生命」「安全」の認識がやや低くなっているが、資質・能力のような大きな変動はない（有意差がない）。特に、高学年では、「生命」については、安定した結果となっている
- ・ 現高1、高2の世代と「生命」「安全」の認識を比較すると、現在の児童生徒の方が高い数値になっている。「いのち」の学習効果によるものだといえる。
- ・ 「安全」については、学習のテーマの影響を受けやすい結果となっている。例えば、防災を取り上げた学習後は、「安全」への意識が上昇している。

量的調査では「生命」の認識にあまり変化が見られないが、質的には変化があるのかどうか調査するため、中学生にインタビューを実施した。

4 新領域「いのち」の実践（コロナ前）とその後の子供の育ち

2019年度の実践から

6年生

「障がいのある人とつながる私」



「生命」
障がいの有無に関係なく
お互いを認め合うこと



「安全」
無意識に生まれる差別意識
(心のかべ) から守られること

《単元のねらい》

障がいのある人も安心できる社会にするためには互いに理解し合うことが大切なことに気付く

4 新領域「いのち」の実践（コロナ前）とその後の子供の育ち

実践「障がいのある人とつながる私」



重度知的障害
肢体不自由



- パラリンピックに対して関心をもってほしい
- 社会の多くの人々の障がいのある人への見方やかかわり方への変化はあまり感じられない。障がいの様子について知るだけでは同じなのではないかと心配している。
- パラリンピックが競技者でない障がいのある人への関心も高まるような大会になってほしい。

4 新領域「いのち」の実践（コロナ前）とその後の子供の育ち

実践「障がいのある人とつながる私」

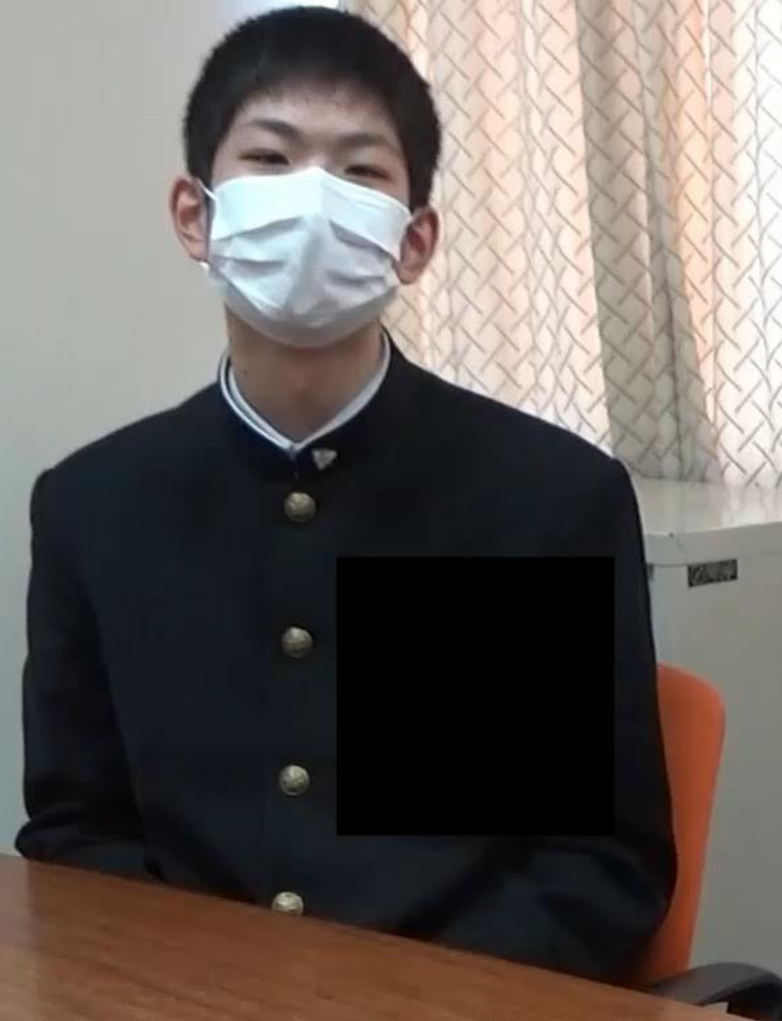
障がいのある人との交流の大切さを知りました。交流は、自分の障がいをもつ人へのかべや、障がいがある方とのかべをこわしてくれました。

前の自分と同じ考え方の人が多くいると思います。その人たちに交流してもらって、少しでも、障がいをもつ人へのかべがなくなり、理解が深まるとよいと思います。

その交流の場を作っていけるような自分になりたいと思います。



4 新領域「いのち」の実践（コロナ前）とその後の子供の育ち

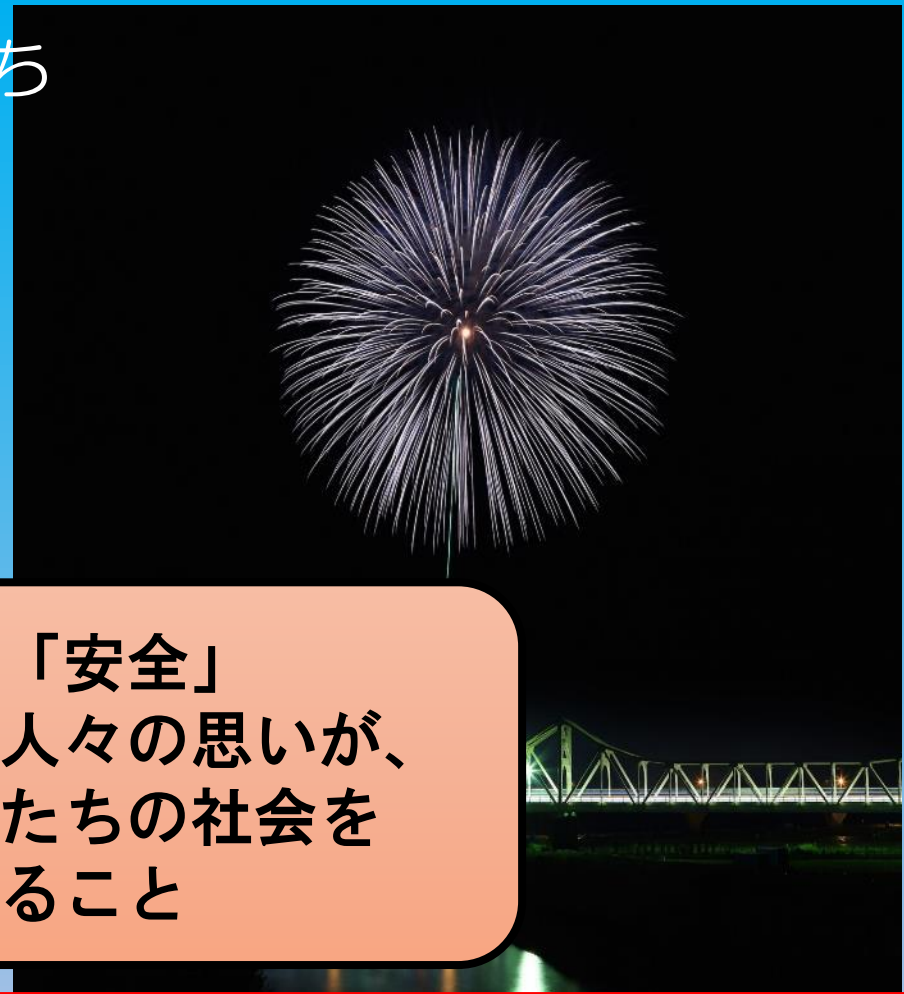
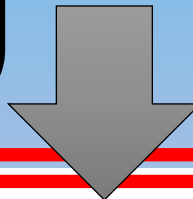


2018年度の実践から
小学校6年生
「長岡花火に生きる人々」

「生命」
花火の中に受け継がれ、
つながっている人々の命



「安全」
様々な人々の思いが、
現在の私たちの社会を
創っていること



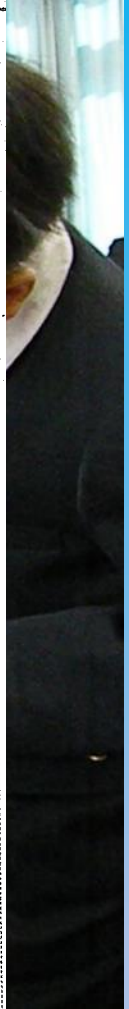
《単元のねらい》

長岡花火に込められた人々の思いを感じながら生きることの大切さに
気付く

4 新領域「いのち」の実践（コロナ前）とその後の子供の育ち



長岡花火と空襲について学習してみても、長岡花火を手がけた人達の願いはかな。たんだな、と思いました。
 花火にこめられた思い(慰霊や復興などを語りついでいる人かいたり、海外でも打ち上げたりしているかです。
 私は花火が打ち上がると、長岡全体が静かにな。て花火に注目すると感じています。空襲でなくな。た人を考えたり、花火を見てきれいたな、と思。たり、それよの思いで見られる歴史ある花火だと思。いました。
 これか私長岡花火を見る時は、きれいたな、と思。たりして楽しもうと思。ています。今までも楽しんで見ていました。しかし、また改めてそう思。たのは、花火をやるうとした人の思いが、花火を見て楽しんでほしいと分か。たかです。毎年8月2、3日は、長岡の思いがこも。た花火を楽しんで見たいです。



4 新領域「いのち」の実践（コロナ前）とその後の子供の育ち

6年生で書いた作文を踏まえ、今（コロナ禍）の長岡花火について
どのような考えを持っていますか？

4 新領域「いのち」の実践（コロナ前）とその後の子供の育ち

★パラリンピックの実践から

- (小6) 障がいのある人との交流が、障がいのある人とのかべをこわしてくれました。陸上をしていた当時の私も勇気づけられました。
- (中2) 陸上を続けている今でも、Nさんとの学習で学んだことを思い出して、がんばろうと思っています。今年のパラリンピックをみて、努力することは素晴らしいことだと感じました。

★長岡花火の実践から

- (小6) 長岡花火をしようと思った人たちの思いをしっかりと受け止め、これからも楽しんで観ていきたい。
- (中3) 今でも、花火の見方は変わらない。多くの亡くなった人たちのために長岡の花火は大切。だから、花火が再開されるところを強く願っている。

「生命」「安全」にかかわる学習した内容は、その子のエピソード記憶として残る。「生命」についての認識は、形を少しずつ変えながら、その子の考え方に影響を与えて続けている。

5 資質・能力でつなく幼小中一貫カリキュラム

12年間の子供の育ち



幼小接続部会の充実
中学校教諭による保育体験
幼児教育についての全体研修

5 資質・能力でつなく幼小中一貫カリキュラム

幼小接続部会の実施と成果

- 幼小教師の互いの教育や子供の姿にかかわる相互理解による教育観の変化
- ゆるやかな接続に向けた朝のゆったりとした時間の設定
- スタートカリキュラムにおける授業づくりのポイントの明確化
 - ・学習指導要領の学習内容にしばられすぎない授業づくり
 - ・子どもが意欲的に学ぶための環境構成
 - ・子どもの主体的な学びを生かす学びのフィールド
 - ・合科的な学習、関連的な学習
 - ・子どもが選択して決める活動

幼小の連携・接続の推進

5 資質・能力でつなく幼小中一貫カリキュラム

幼児教育にかかわる全体研修の実施

< 中学校国語科教諭の気付き > から

- ・ 子供の思いに寄り添う・思いを大切にするための環境づくりの重要性
- ・ 幼児教育では、子供たちが遊びに没頭することを目指す。中学校では学習内容の理解も目標となる。それらの違いを研究でどのように位置付けたり、系統付けたりすることができるか。
- ・ 子供が何を求めているのかを解釈することが必要になる。

**幼児の育ちや幼児教育の援助についての理解の深まり
子供理解の重要性を再確認
中学校における授業の在り方の検討（教育観の更新）**

6 研究開発実施上の今後の課題

- ① 「いのち」の内容を公立校に十分に普及できていない。さらに普及するために、指導資料をWebページで公開したり、冊子として各校に配付したりして「いのち」の学習を活用してもらえらるようにするここと。
- ② 当校園で設定した三つの資質・能力と学習指導要領との関連を図ること。
- ③ 「生命」「安全」をテーマに限定することで、一貫して学習活動を展開することができるが、一方で、限定したことによって子供の興味・関心と離れてしまうここともあった。子供の興味・関心や子供の生活とかかわる問題を取り上げてテーマや単元を考えていく必要があるここと。